

首都大学東京人文社会系 FD 委員会セミナー

映画「無常素描」

上映・討論会

—アクティブ・ラーニングの実践のために—

The
Sketch of
Mujo

大地揺れ、
津波の跡、後。

©大宮映像製作所

2012年5月30日(水) 16:30開場 17:00開演
首都大学東京・南大沢キャンパス・6号館101教室
入場無料 事前予約不要

17:00-18:15 映画「無常素描」(75分) 上映

18:30-20:00 討論会「カタストロフィ(破局)と人文学」

討論者：三浦哲哉(映画上映プロジェクト「Image.Fukushima」実行委員会代表、映画研究者)

乾彰夫(首都大学東京・教育学)、山下祐介(社会学) 司会：西山雄二(フランス文学)

映画「無常素描」(監督・大宮浩一)は、東日本大震災の状景をいち早くカメラに捉えて話題となっているドキュメンタリー映画。東日本大震災とそれに伴う原発事故という未曾有の複合災害は、人文社会の知に大きな課題を突きつけている。人文社会の知がいかなる言葉、いかなるイメージ、いかなる論理でもって、この破局的出来事を表現し思考することができるのか。映画上映と討論を通じて、大震災と学術をめぐる問いを浮き彫りにし、参加する教員、学生、市民のあいだで積極的な学びの経験を共有したい。討論会には、映画作品を通じて震災を伝える映画祭「Image.Fukushima」を主宰している三浦哲哉さんをお招きし、首都大学東京の教員らと討議をおこなう。

問い合わせ先メール=nishiyama.tmu@gmail.com 主催=首都大学東京人文社会系FD委員会
協賛=学長裁量傾斜研究費・研究環「カタストロフィと人文学」、NPO日本記録映像振興会

東日本大地震発生から一ヶ月あまり――。

車窓に、瓦礫の山と広漠たる荒野の、灰色の風景が流れてゆく。

一人の映画作家が、尼崎の町医者とともに被災地へ向かっていった。

そこで出逢ったひとびとは、静かに語りはじめる。一台のカメラが、

その声と風景を何度も往復しながら、ただひたすらに素描を重ねていく。監督は、『ただいまそれぞれの居場所』で、介護現場のいまと

希望を描き、平成二十二年文化庁映画賞「文化記録映画大賞」を受賞した大宮浩一。

日付も地名も、人の名も付すことのないこの映画は、未曾有の大地震と津波の跡を、そして、その後もなお続くいとなみを、決して情報に還元することなく、スクリーンに大きく映しだしてゆく――はたして「復興」とは何を意味するのか？ 私たちは何処へゆくのか？ 映画館の暗闇に、いくつもの問いが、浮かんでは、消えていく。



「東北の被災者のあり方が賞賛を浴びたっていうのは、経済原理からいうと、遅れた地域だったわけですよ。だからこそ、守られていたもの。それが、私は賞賛されているような気がしてしるような気がしすね」



「若い人たちは頑張ってる、なんとか立て直してもらいたいんだけども。もうこのザマを見たら……どうするんだろう、これ」

「街角にビルが建つと、ここに前何があったかなっていうの、すく忘れるんですね」

「ああ、本当に信じられません。ああ、信じられません。YouTubeで船を見ましたから、ここに来たかった。本当に信じられません」

祖母
「だっていつかまた必ずあるでしょ、こういう事が。だから、あんまり海の近くには住みたくないね」
孫
「でも、海好きだもん」



誰が悪いわけでもないのに、自分のせいでもないのに、どうしてこんな災厄が起きてしまうのだろう。そして人間はそれを目の当たりにしてどうやって生きていけばいいのだろう。この春の出来事を中心にあった筈の問いかけに、この映画は一番に答えてくれている。報道ではなく正に映画。出来事が起こってから短期間に上映まで行うという行為も含め、映画にはまだまだ未来があるのだと勇気を貰った。

記憶にある故郷・気仙沼は目の前にあるのに、生活の音、匂いが一切ないことに、ある種の恐れを抱いたのを思い出しました。テレビや新聞では、さも騒々しく取り上げられている現地ですが、決して大声もなく音もなく、暗いトーンの静寂だけが降り注いでいました。被災地で私自身感じた感覚が、映像化されていることに驚きました。

The Sketch of Mujo
www.mujosoby.jp

瀬々敬久——映画監督

小野寺英孝——医師(聖マリアンナ医科大学 災害医療支援班)

首都大学東京人文社会系 FD 委員会セミナー

映画「無常素描」上映・討論会

2012年5月30日(水) 16:30 開場 17:00 開演

首都大学東京・南大沢キャンパス・6号館101教室

入場無料 事前予約不要

17:00-18:15=映画「無常素描」(75分) 上映 / 18:30-20:00=討論会「カタストロフィ(破局)と人文学」

討論者: 三浦哲哉 (映画上映プロジェクト「Image.Fukushima」実行委員会代表、映画研究者)

乾彰夫 (首都大学東京・教育学)、山下祐介 (社会学) 司会: 西山雄二 (フランス文学)